

作成日 2024/10/01

改訂日 2024/11/13

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

| | |
|----------|--|
| 化学品の名称 | DAISAVE SS-110 |
| 製品コード | DAISAVE_SS110 |
| 整理番号 | Y2124-4 |
| 供給者の会社名称 | ダイキン工業株式会社 |
| 住所 | 大阪府大阪市北区梅田一丁目13番1号 大阪梅田ツインタワーズ・サウス |
| 担当部門 | 化学事業部 営業部 |
| 電話番号 | 06-6147-9702 |
| FAX番号 | 06-6147-9807 |
| 緊急連絡電話番号 | 06-6349-7521 |
| 推奨用途 | 工業用一般 |
| 使用上の制限 | 推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家/化学物質専門家等の判断を仰ぐこと。 |

2. 危険有害性の要約

| | |
|-----------|------------------------|
| 化学品のGHS分類 | GHS分類に該当するデータは得られていない。 |
| GHSラベル要素 | 情報なし |

3. 組成及び成分情報

| | |
|-------------|------|
| 化学物質・混合物の区別 | 化学物質 |
|-------------|------|

| 化学名又は一般名 | 濃度又は濃度範囲 | 化学式 | 官報公示整理番号 | | CAS番号 |
|------------|----------|-----|----------|--------|-------|
| | | | 化審法番号 | 安衛法番号 | |
| パーフルオロアルケン | 99.0%以上 | 省略 | なし | 整理番号あり | 非公開 |

4. 応急措置

| | |
|-----------|---|
| 吸入した場合 | 本製品の加熱又は燃焼によって生じるヒュームを吸入した場合は新鮮な空気の場所に移す。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。 |
| 皮膚に付着した場合 | 水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。 |
| 眼に入った場合 | 直ちに清浄な水で15分以上洗眼する。 眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。 |
| 飲み込んだ場合 | 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。 |

5. 火災時の措置

| | |
|-----------------------|-------------------------------------|
| 適切な消火剤 | 周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。 |
| 使ってはならない消火剤 | 情報なし |
| 火災時の特有の危険有害性 | 火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。 |
| 特有の消火方法 | 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 |
| 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 | 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服（耐熱性）を着用する。 |

6. 漏出時の措置

| | |
|-----------------------|--|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | 関係者以外は近づけない。 作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 |
|-----------------------|--|

| | |
|---------------------|---|
| 環境に対する注意事項 | 風上に留まる。 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び 機材 | 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。 乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。 |
| 二次災害の防止策 | 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 |

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い場所は禁煙とする。製品が付着した煙草の喫煙により分解ガスを吸入する恐れがあるので、煙草の持ち込みも禁止とする。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
内部が陽圧になっていることがあるので、ふたを開ける場合には、慎重に行う。

接触回避

衛生対策

『10. 安定性及び反応性』を参照。

取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

『10. 安定性及び反応性』を参照。
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。
容器は直射日光や火気を避けること。
容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。

安全な容器包装材料

包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

工程の密閉化、局所排気その他の設備対策を使用する。

保護具

呼吸用保護具

リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な呼吸用保護具を選択し、着用すること。

防毒マスクには有機ガス用吸収缶を使用する。

製品が加熱され、生ずる分解生成物中に人体が暴露される場合は有機酸性ガス用防毒マスク（場合によってはエアラインマスク）を使用する。

手の保護具

リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護手袋を選択し、着用すること。

眼、顔面の保護具

リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な眼および顔面の保護具を選択し、着用すること。

皮膚及び身体の保護具

リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護衣、履物を選択し、着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|-----------------------|---------|
| 物理状態 | 液体 |
| 形状 | 液体 |
| 色 | 無色透明 |
| 臭い | 無臭 |
| 融点／凝固点 | -100℃以下 |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲 | 110℃ |
| 可燃性 | データなし |
| 爆発下限界及び爆発上限界／ 可燃限界 | |

| | |
|----------------|-------------|
| 下限 | なし |
| 上限 | なし |
| 引火点 | 引火せず |
| 自然発火点 | 413°C |
| 分解温度 | データなし |
| pH | データなし |
| 動粘性率 | データなし |
| 溶解度 | データなし |
| n-オクタノール／水分配係数 | >5.7 |
| 蒸気圧 | 3.7kPa 25°C |
| 密度及び／又は相対密度 | 1.78 25°C |
| 相対ガス密度 | データなし |
| 粒子特性 | データなし |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|---|
| 反応性 | 情報なし |
| 化学的安定性 | 通常の温度、気圧下では安定である。 沸点以上の加熱または燃焼すると分解し、フッ化水素などの有毒なフェュームを生じる。 |
| 危険有害反応可能性 | 情報なし |
| 避けるべき条件 | 沸点以上の加熱、熱源、裸火。 |
| 混触危険物質 | 情報なし |
| 危険有害な分解生成物 | 熱分解生成物として、一酸化炭素、フッ化水素を発生する可能性がある。 |

11. 有害性情報

| | |
|------------------|---|
| 急性毒性 | |
| 経口 | Oral LD50 > 2000 mg/kg (Rat) (OECD 423) |
| 皮膚腐食性／刺激性 | データなし |
| 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | データなし |
| 呼吸器感作性 | データなし |
| 皮膚感作性 | データなし |
| 生殖細胞変異原性 | データなし |
| 発がん性 | データなし |
| 生殖毒性 | データなし |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | データなし |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | データなし |
| 誤えん有害性 | データなし |

12. 環境影響情報

| | |
|----------------|---|
| 水生環境有害性 短期（急性） | データなし |
| 水生環境有害性 長期（慢性） | データなし |
| 生態毒性 | LC50/96h > 1.312 mg/l (Fish) (OECD 203) |
| 残留性・分解性 | データなし |
| 生体蓄積性 | データなし |
| 土壌中の移動性 | データなし |
| オゾン層への有害性 | データなし |

13. 廃棄上の注意

| | |
|----------|------|
| 残余廃棄物 | 情報なし |
| 汚染容器及び包装 | 情報なし |

14. 輸送上の注意

国際規制

| | |
|--|----------------|
| 海上規制情報 | 該当しない |
| Marine Pollutant | Not applicable |
| Liquid Substance Transported in Bulk According to MARPOL 73/78, Annex II, the IBC Code | Not applicable |

航空規制情報 該当しない

国内規制

| | |
|--|-------|
| 陸上規制 | 該当しない |
| 海上規制情報 | 該当しない |
| 海洋汚染物質 | 非該当 |
| MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質 | 非該当 |
| 航空規制情報 | 該当しない |
| 緊急時応急措置指針番号 | なし |

15. 適用法令

| | |
|------------------------------|------|
| 労働安全衛生法 | 非該当 |
| 毒物及び劇物取締法 | 非該当 |
| 化学物質排出把握管理促進法（非該当 P R T R 法） | |
| 消防法 | 非危険物 |

16. その他の情報

| | |
|------|--|
| 参考文献 | 情報なし |
| その他 | 当製品は、工業用途として開発されたもので、それ以外の使用について、その安全性を保証するものではありません。本製品を医療用途、食品用途などにお使いの場合は弊社まで事前にご連絡ください。このSDSは、一般的な取扱いを前提に作成したものです。取り扱う際は、ここに記載されている内容を参考にし、十分注意して取り扱ってください。また、記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の情報は保証値ではありません。危険有害性情報は、全ての情報を網羅しているわけではありません。また、新しい知見に基づき改訂されることがあります。 |
| 変更点 | 「9. 物理的及び化学的性質」に変更があります |